

アメリカ留学報告書

山梨県立大学
小山優希

目次

- ・ 序論
- ・ 留学の目的
- ・ 留学概要
 - (1) 授業詳細
 - (2) 大学生活
 - (3) 印象に残ったエピソード
 - (4) 日本語教室ボランティア活動
 - (5) イベントボランティア活動
- ・ 学んだこと
- ・ 結論

序論

本レポートは2018年8月から2019年8月まで、アメリカ合衆国アイオワ州に位置するデモイン・エリア・コミュニティ・カレッジにて行った交換留学に関するものである。筆者の体験から留学のメリット、今後の展望を述べる。

・ 留学を目指した理由と目的

きっかけは以前に海外派遣交流事業に参加したことであり、海外交流でこんなにも物事に対する考え方が変わるのだと実感したことがアメリカ留学を目指した大きな要因である。本留学の目的は山梨県の人口減少と少子高齢化といった地方の弱体化を食い止める政策の1つに「観光まちづくり」が大きな役割を果たすことに着目し、インバウンドを対象とした観光振興を目指すことにある。

留学概要

筆者が留学した大学は、アイオワ州で約25,000名と最大の学生数をもつコミュニティカレッジである。アイオワ州内に6つのキャンパスを持ち、本部があるメインキャンパスは14,000名の学生が在籍しており、広大な敷地には寮やアパートが併設されている。看護学、農業環境学科、自動車工学、調理科学、経済学、保険科学等のコースのほか、提供するプログラムが非常に多い。筆者が在籍したUrban Campusは第一言語が英語ではない学生向けにEnglish Second Language(以降はESLと略すこととする)クラスがあり、多国籍で幅広い年代の人たちと交流することがで

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

きる。英語のレベルは7段階に設定され、1クラス20名前後で月曜から金曜にまで講義を受けられる。

(1) 授業詳細

筆者が履修したクラスは以下の通りである。

クラス名
High Intermediate Listening and Conversation
Introduction to Writing Skills ESL
Introduction to Reading Skills ESL
Introduction to Speaking Skills ESL
Advanced Academic Listen/ Conversation Skills
Advanced Academic ESL Writing
Developmental Psychology
Intro to Literature

(2) 大学生活

Des Moines Area Community College (以後 DMACC と省略) での大学生活は積極性や実行力が求められる非常に刺激的な授業ばかりだった。アメリカの授業体系については事前に知識を持っていたが、体験してみると改めて素晴らしいと思いました。授業は週2回(1.5時間ずつ)か週3回(1時間ずつ)あるため、日本で受けた授業よりも進みが速く、より深いところまで勉強することができた。宿題は毎週だされ、中間試験が2回、期末試験が1回あるのでコンスタントに勉強し、その分知識の定着度も高いのではないかと考える。

私自身はもともと授業内で教授に質問や意見をしゃべるタイプではなかった。が、DMACCでは生徒と先生の会話が授業内で盛んに行われているため、自然と自分も積極的に発言できるようになった。日本では体験できなかったと思うのが、教育をトピックにした授業の中で生徒一人の問いかけからクラス内で議論が繰り広げられ、最終的に先生も教科書を投げ出して議論に参加してしまうという出来事だった。各々が意見を持ち、否定肯定を繰り返す経験は自身にとって新鮮であった。

また多様なバックグラウンドを持つクラスメイトとの交流は、自身のステレオタイプを壊すきっかけになりました。渡米前のメディアでしかふれてこなかった文化の違いに関する私の認識は、表面上にすぎなかったことを知りました。具体的に知識として異文化を知っているのみならず、それを実際に体感し、その存在を認識しなければならないと感じた。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

(3) 印象に残ったエピソード

印象的だった体験をひとつ紹介したい。先生が学生の質問に答えるオフィスアワーという時間帯があり、その時間帯にプレゼンテーション作成のため自習室にチームメイトと行った。その部屋には日本で言うところの中学生くらいの年齢の子がおり、どこかの学生が弟もしくは息子を連れてきたのだと思った。そこで先生に冗談で「あの子は学生か」と尋ねると先生は「そうだ」と答えた。先生の言葉がにわかには信じられなかったが、暫く見ているとその子は隣にいた学生に宿題を教えていた。どうやらその子供が学生というのは本当のようだったが、自分よりも数十 cm 背が低い子供が大学生ということに衝撃を受けた。特に私が通っていた DMACC はコミュニティ・カレッジという特徴のため、働きながら通う学生は 20~50 代とかなり年齢層が幅広い。そのため中学生くらいの子が余計に目にとまったのかもしれない。飛び級という制度については知っていたが、実際に飛び級を実行している人を見たのは初めてだった。アメリカに滞在したのは 1 年程度ですが、アメリカの多様性と柔軟性、優秀な人を引き上げるシステムの一部を見ることができた。アメリカから見ると日本は一様で、均質的なように思える。勿論そのほうが良い面もあると思うし、好みが分かれる点だと思うが、アメリカの文化、システムが自分に合っていてその中で挑戦してみたいと思う学生がいるのであれば、是非留学して欲しい。

(4) 日本語教室ボランティア活動

留学 1 年間私は日本語学校のボランティアとして運営に携わった。日本語学校の「マナビヤ」は、2012 年春にアイオワ州日本アメリカ協会の教育プログラムとして立ち上げられました。アイオワにくらす日本のコミュニティメンバーは、将来の世代のために日本の文化や伝統を継承し、デモイン地域の多様性を促進することの価値を見いだしている。このプログラムは、日本の子供と、日本語と文化を学びたい子供たちを対象としているため、生徒の年齢層は幅広い。加えて日本語習得レベルにも差があり、日常会話レベルをそつなく話せる子もいれば、50 音を覚え途中の子どももいる。そのような中授業は日本語初心者の子どもたちにも分かるよう設定されるので、上級者の生徒には物足りない授業になってしまうという問題点もありました。スタッフの不足を私たちボランティアスタッフが補うことによって、難易度をグループごとに分けた時間を設けることができた。マナビヤは週に 1 回の授業を通して、日本語はもちろん季節ごとの行事やその成り立ちについて学び体験してもらおう。アメリカでは日本文化がそのほかの東アジアに位置する国々の文化と混合して、とらえられていることが多くあるため、ピュアな日本文化を体験学べる場所としてマナビヤは非常に大きな役割を持つ。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

- (5) イベントボランティア活動
別紙県政の課題にて記載。

・学んだこと

- (1) 抽象的なイメージから具体化したイメージへと変容する。
留学前のイメージは外国に対して、「危ない」「きれい」など抽象的な留学のイメージが多く含まれていたが、留学のイメージはより具体的で自身の経験に基づいたものが多くなった。
- (2) 相反するイメージを持つようになる
「フレンドリー」と「恥ずかしがり屋」、「日本人と変わらない」る「壁を感じる」など、一見相反するように思われるイメージを持ち、画一的なステレオタイプではなく、個人差や多様性に目を向けるようになる。
- (3) 言語に対する意識の変化
留学前には言語に関することが最重要項目であった。しかし、留学後は英語の重要性よりも次にどう活かすか・どう行動するかが最重要事項となった。コミュニケーションの一手段としての認識になっている。
- (4) 日本や日本人と比較した相対的なイメージが増える
留学前のイメージはメディアからのイメージも多く、異文化を日本との関係性の中でとらえた機会は少ない。しかし、留学後は日本や日本人と比較しながら異文化と自分たちの文化を相対的に見るようになった。その結果、自分たちと共通した部分にも着目したイメージを持つようになった。

・結論

留学中はもちろん楽しいことだけでなく、勉強や生活など慣れない環境のために時々目標を見失ってしまう事もあった。そんな時に初心を再確認すると自分を励ますことができると思う。また実際に達成できたかどうか分かる 目標も掲げるとより明確になる。私の場合「現地の意欲的な生徒のように自分も積極的に発言する」ということを目標の一つとして掲げていた。留学の初めは積極性以前に英語力の問題でなかなか実行できなかったが、冬学期・春学期にかけて前よりも積極的に自分から発言できるようになった。また、私は何でも「自分次第」で変わるということを留学を考えている学生に伝えたい。人と交流の輪を広げるのも自分、どんな留学生活にするか決めるのも自分。結局頑張るのは自分自身であって「知らなかったから」や「履修した授業が大変だから」とか、できなかった理由を探してはいけないと学んだ。与えられた条件で どれだけ頑張れるのかが留学生活を豊かにするかそうでないかを左右する。しかし私の場合、留学中に 2 度ネガティブ思想に陥りそこから抜け出せないことがあり、その時は友人の存在がとても大きくたくさん助けてもらった。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

留学は日本で体験できない多くのことに触れることができる貴重な時間であると考えます。いまできることは何なのか、アメリカ/その国でしかできないことは何なのかよく考え、その貴重な時間を実りあるものにしてください。



写真1 インターナショナルクラブ



写真2 インターナショナルフェスティバル

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



写真 3, 4 プレスクールでのボランティア活動



写真 5 マナビヤの様子

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



写真 6 , 7 シンプソン大学でのプレゼンテーションの様子